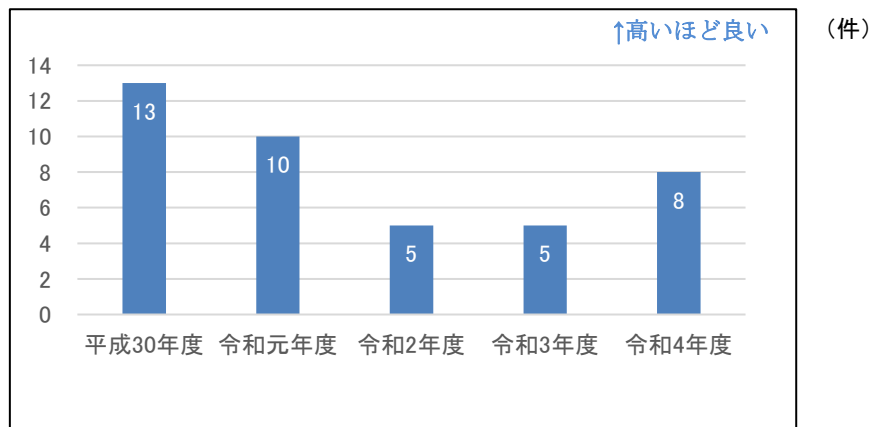


32 超重症児の手術件数

○項目の解説

超重症児とは、食事摂取機能の低下や栄養吸収不良などの消化器症状、呼吸機能の低下のために濃密な治療を必要とする小児です。超重症児の手術は健康な小児の手術に比べ、より高度な医療技術と治療体制が必要です。熟練した小児外科医や麻酔科医の配置が必要ですので、小児医療の質の高さを表す指標となります。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

旭川医科大学病院小児外科は、道北・道東地域における唯一の小児外科施設であり、小児外科の症例は当院に集中しています。さらに、旭川は全国でも有数の障がい児(者)施設である北海道療育園や、道北の療育拠点である北海道立旭川子ども総合療育センターの2施設を抱えており、周辺地域からも重症例が集中し、超重症児の手術が多い要因となっています。

重障児における胃食道逆流症に対する噴門形成術や、難治性誤嚥に対する喉頭気管分離・気管切開などの手術を行い、患児のみならず介護者におけるQOLの向上に寄与しています。また、胃食道逆流症に対する噴門形成術に関しては、全国屈指の手術件数を有し、安定した成績を学会などで報告しています。

新型コロナウイルス感染症関連での入院制限や、重症心身障がい児(者)施設でクラスターが発生した影響で、令和2-3年度は超重症児の手術件数が少ない傾向にありましたが、令和4年度は8例と再増加傾向にあります。

○定義

DPC データを元に算出した、医療診療報酬点数表における、「A212-1イ 超重症児入院診療加算」及び、「A212-2イ 準重症児入院診療加算」を算定した患者の手術(医科診療報酬点数表区分番号K920、K923、K924(輸血関連)以外の手術)件数です。

○算式

実数